



徳島オーケストラと合唱団の集合写真  
前列中央に指揮者ヘルマン・ハンゼン

音楽は歴史の背景を知る手がかりかもしれない。

今回、巽 千夏さんに ベートヴェン：ピアノとヴァイオリンのソナタ プログラム リサイタルをお願いいたしました。その切っ掛けは、日本における「第九 全楽章 初演の地」徳島の板東にありました。その頃に板東でベートーヴェンのクロイツェルが演奏されていたのです。もしかしたらクロイツェルも初演の地かもしれない。1918年当時の詳細にご関心を示された方々へ、可能な範囲でお知らせしたいと思います。（ほぼ引用です。）

ベートヴェン「第九」交響曲は、1918(大正7)年6月1日、板東(現 鳴門市大麻町)で日本で初めて演奏されている。第1次世界大戦時、中国の青島で捕虜となったドイツ兵約1,000名が1917年から約3年の間、板東の地で暮らしていた。

俘虜生活の中で100回を超える演奏会を開催しているが、その中でも2つのオーケストラ団体が存在していたことに驚愕。第九 全楽章はヘルマン・ハンゼン指揮によるTokushima オーケストラによって演奏。ソリスト4名・合唱80名・楽団45名ほどが参加しており、第4楽章の女性パートは男性パートに編曲される。

俘虜生活の中では音楽に限らず、製菓、西洋野菜栽培、建築、スポーツなどを通し、地元の人たちと文化交流が行われていた。何故、地元の人たちが捕虜の人たちを受け入れていたのか分からない。ただ、近隣にお遍路の一番札所があるのを思い出した時、何かを感じたことがある。そこが疑問を解く手がかりかもしれない。

#### エンゲル・オーケストラ 第1回コンサート

1917(大正6)年5月13日(日) 午後3時開演 会場：兵舎第1棟講堂

- ・メンデルスゾーン：「アタリー」から「僧侶の戦争行進曲」
- ・ロッシーニ：「セビリアの理髪師」序曲
- ・グノー：「ファースト」抜粋
- ・ルビンスティン：「ヘ調の旋律」
- ・ニコライ：「ウィンザーの陽気な女房達」

#### 第3回 室内楽の夕べ(ベートヴェン)

1918(大正7)年2月3日(日) 午後6時15分開演

- ・ピアノ四重奏曲 変ホ長調 作品16
- ・ヴァイオリンソナタ第9番 作品47「クロイツェル」 P.エンゲル(Vn)、A.ヴィンダーリヒ(Pf)

ベートーヴェン銅像、集合写真、当時のコンサートプログラム内容、等は「鳴門市ドイツ館」所蔵の板東俘虜収容所関係史料より引用しています。

URL <https://doitsukan.com/>